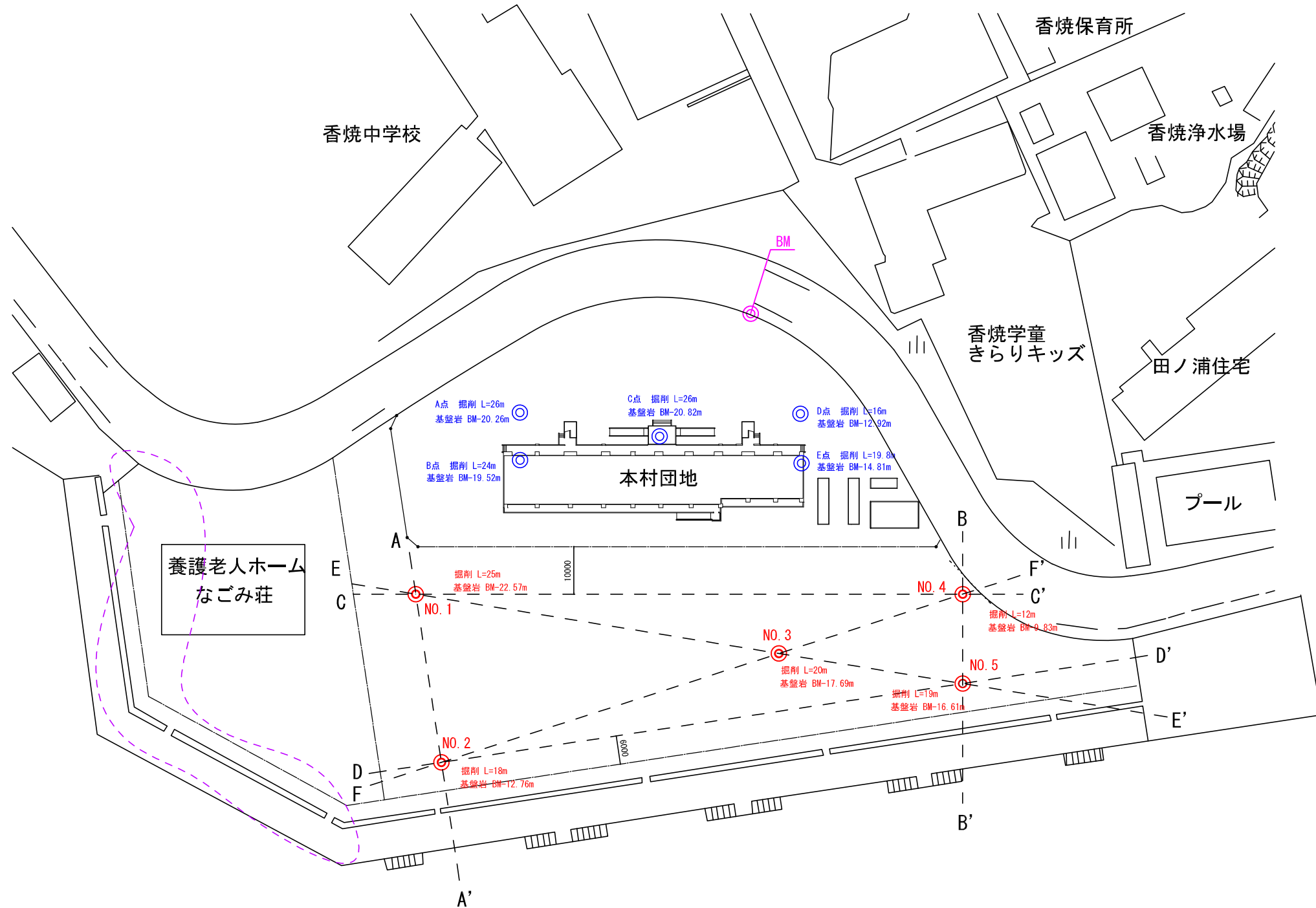


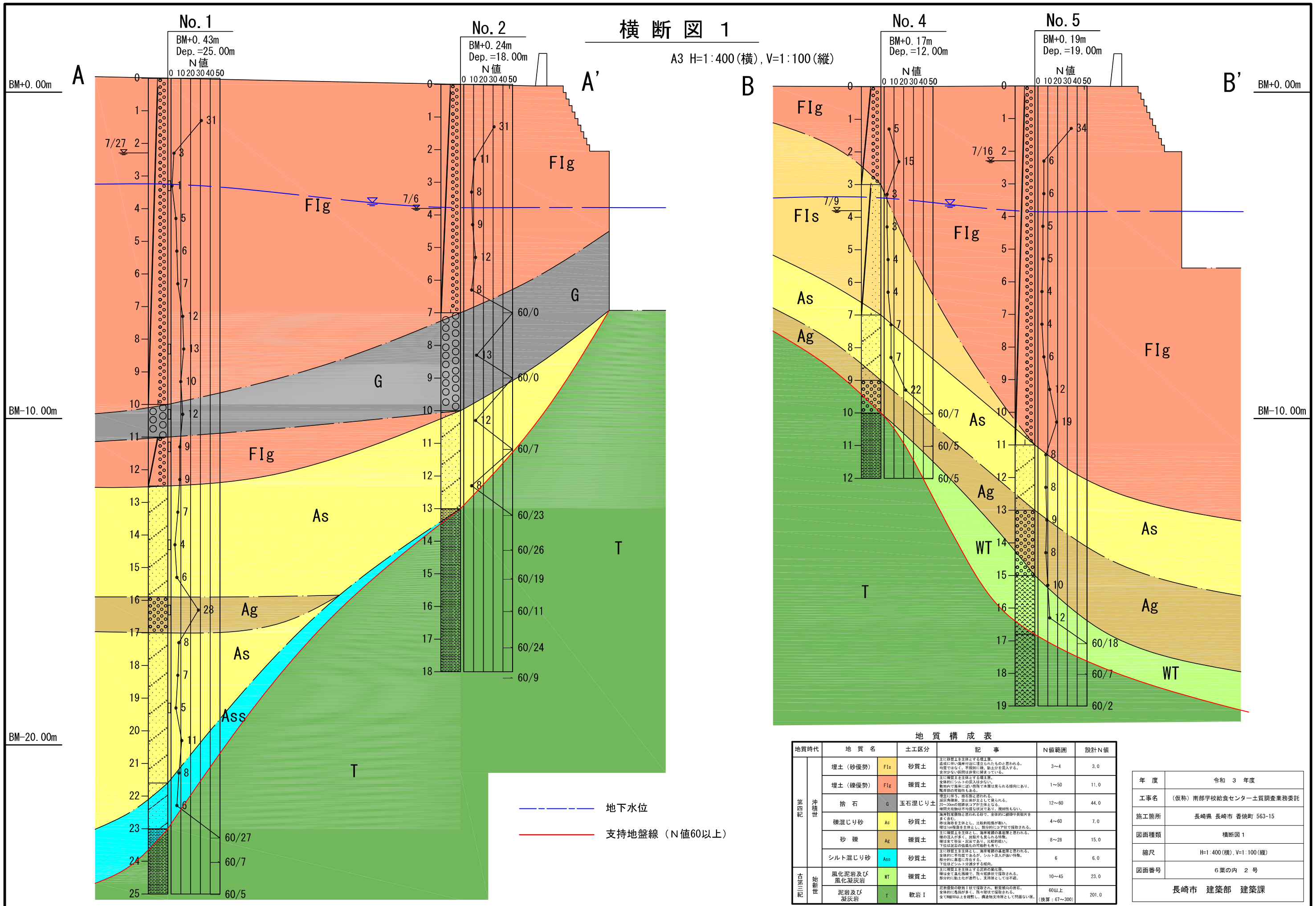
調査位置図

A3 S=1:1,000



- 基準点BM
- 既存ボーリング (本村団地)
- 調査ボーリング (R3)
- 岩礁 (破線は旧岩礁)

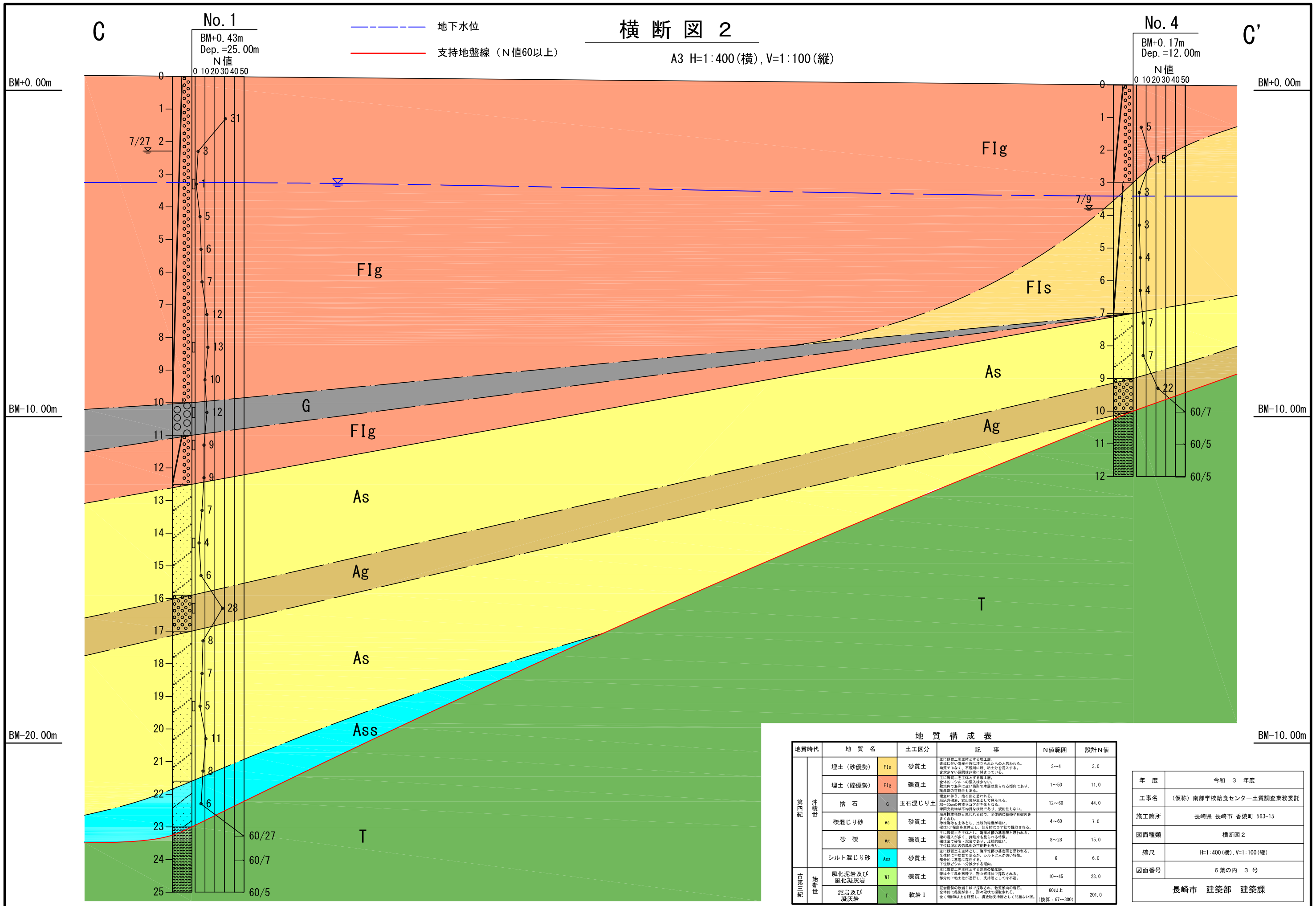
年度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	調査位置図
縮尺	S=1:1,000
図面番号	6葉の内 1 号
長崎市 建築部 建築課	



地質構成表

地質時代	地質名	土工区分	記事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土 (砂優勢)	FIg	砂質土	3~4	3.0
	埋土 (礫優勢)	FIg	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
	シルト混じり砂	Ass	砂質土	6	6.0
古第三紀 始新世	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上	201.0

年度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	横断図 1
縮尺	H=1:400 (横), V=1:100 (縦)
図面番号	6 葉の内 2 号
長崎市 建築部 建築課	



地質構成表

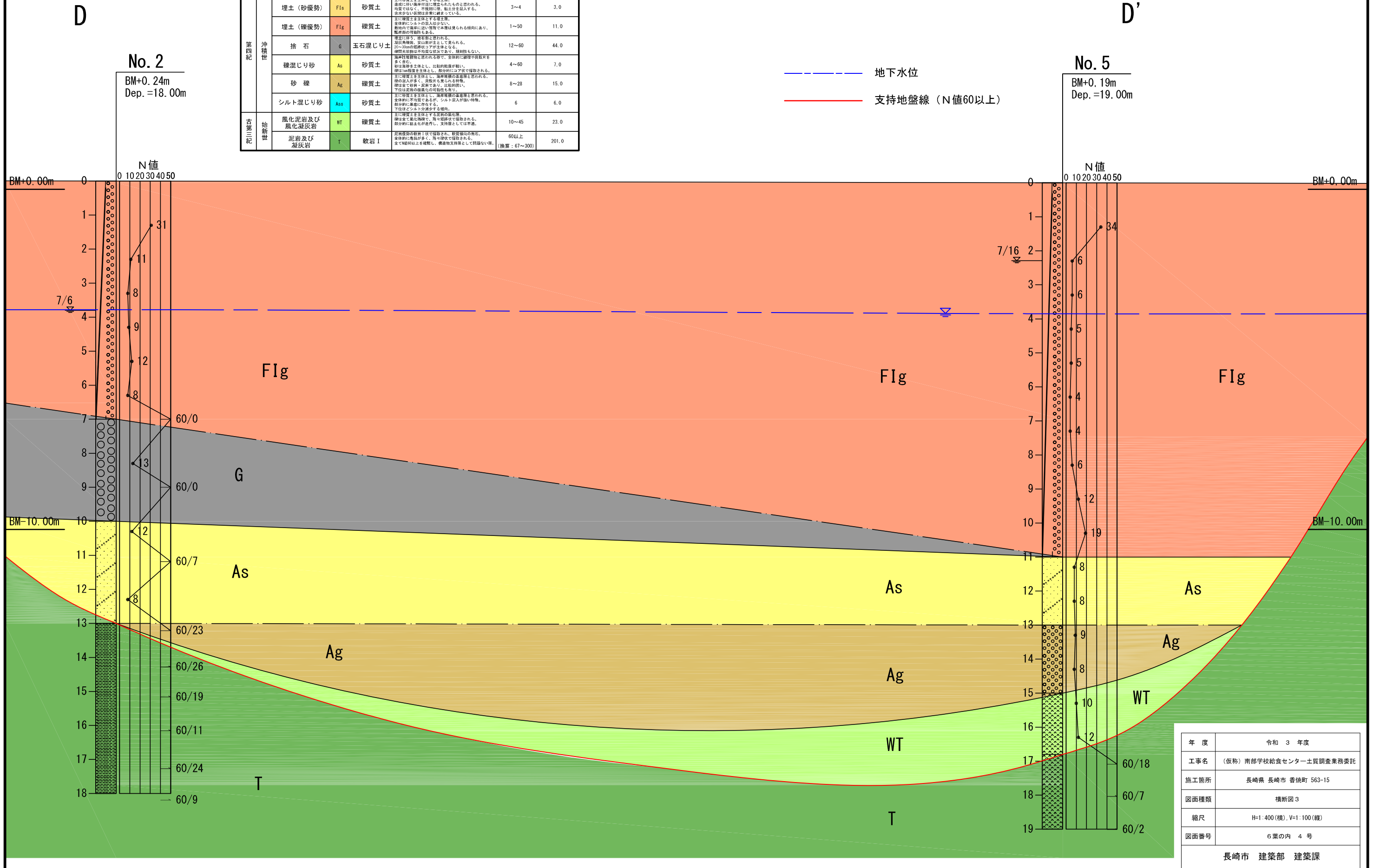
地質時代	地質名	土工区分	記事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土 (砂優勢)	FIg	砂質土	3~4	3.0
	埋土 (礫優勢)	FIg	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
	シルト混じり砂	Ass	砂質土	6	6.0
古第三紀 始新世	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上	201.0

年度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	横断図 2
縮尺	H=1:400(横), V=1:100(縦)
図面番号	6 葉の内 3 号
長崎市 建築部 建築課	

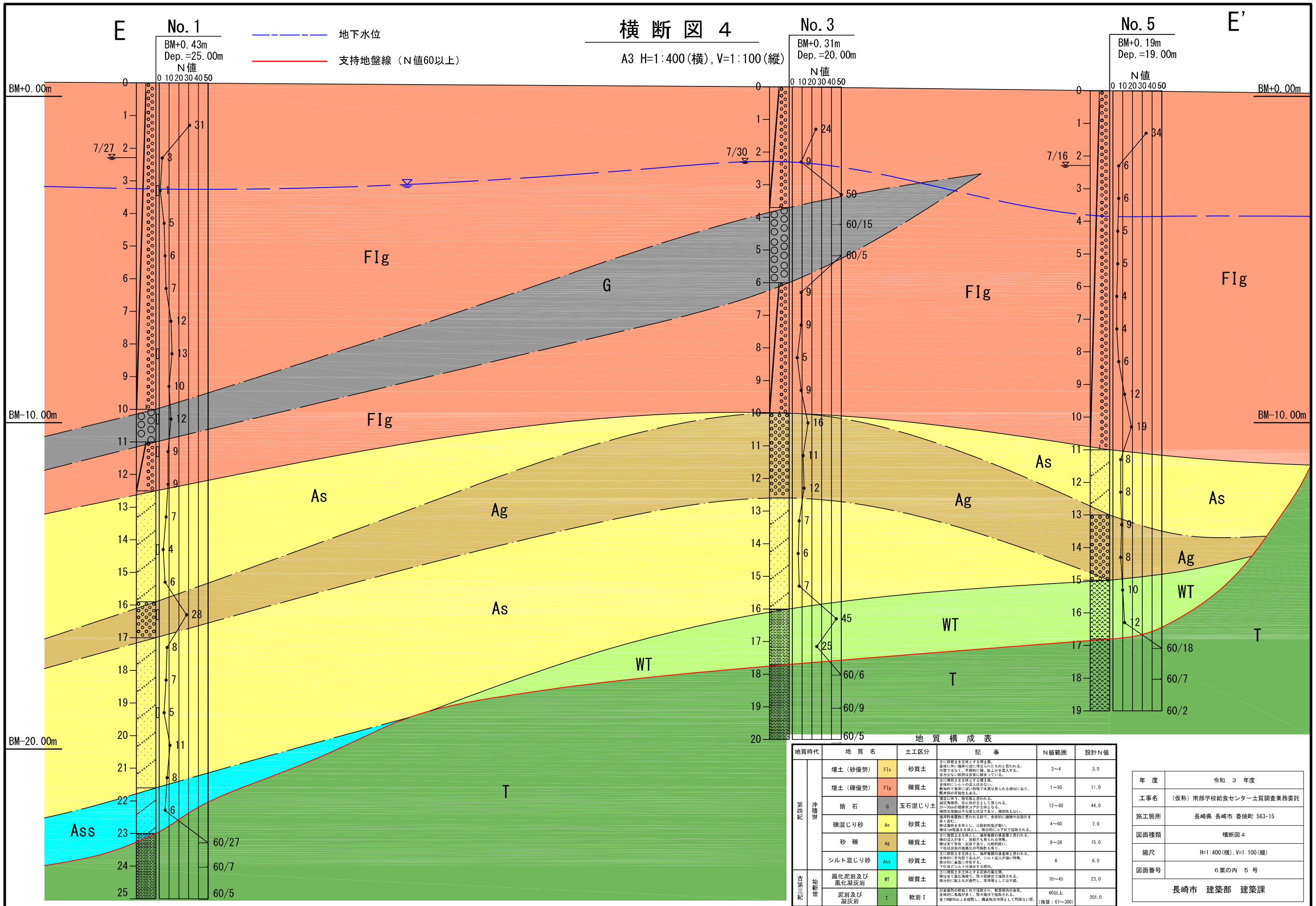
横断図 3

A3 H=1:400(横), V=1:100(縦)

地質時代	地質名	土工区分	記事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土(砂優勢)	Fls	砂質土	3~4	3.0
	埋土(礫優勢)	Flg	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
古第三紀 始新世	シルト混じり砂	Ass	砂質土	6	6.0
	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上 (換算: 67~300)	201.0



年度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	横断図 3
縮尺	H=1:400(横), V=1:100(縦)
図面番号	6葉の内 4 号
長崎市 建築部 建築課	



地質構成表

地質時代	地質名	土工区分	記 事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土 (砂優勢)	FIg	砂質土	3~4	3.0
	埋土 (礫優勢)	FIg	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂 礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
	シルト混じり砂	Ass	砂質土	6	6.0
古第三紀 始新世	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上	201.0

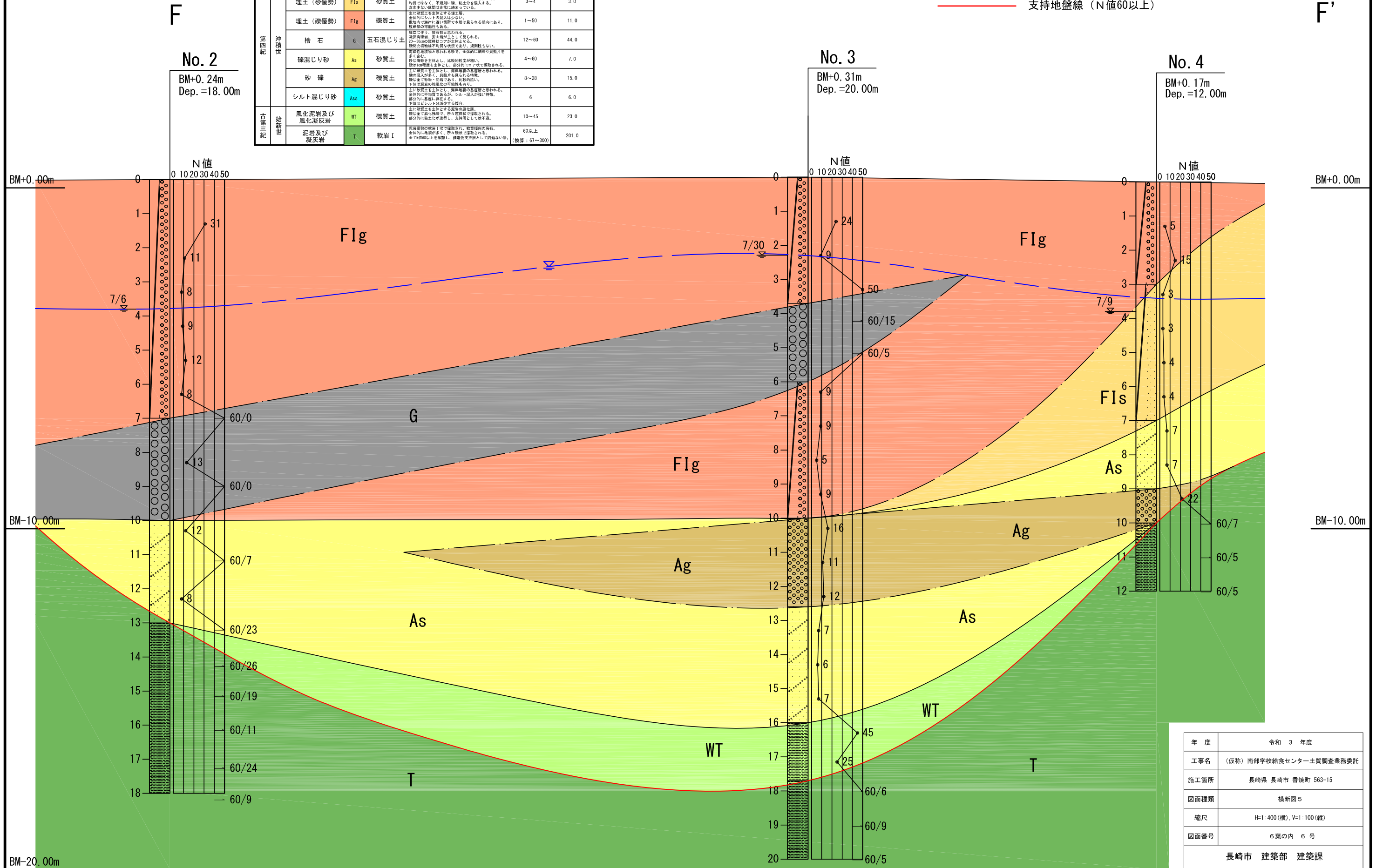
年 度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	横断図 4
縮尺	H=1:400 (横), V=1:100 (縦)
図面番号	6 葉の内 5 号
長崎市 建築部 建築課	

横断図 5

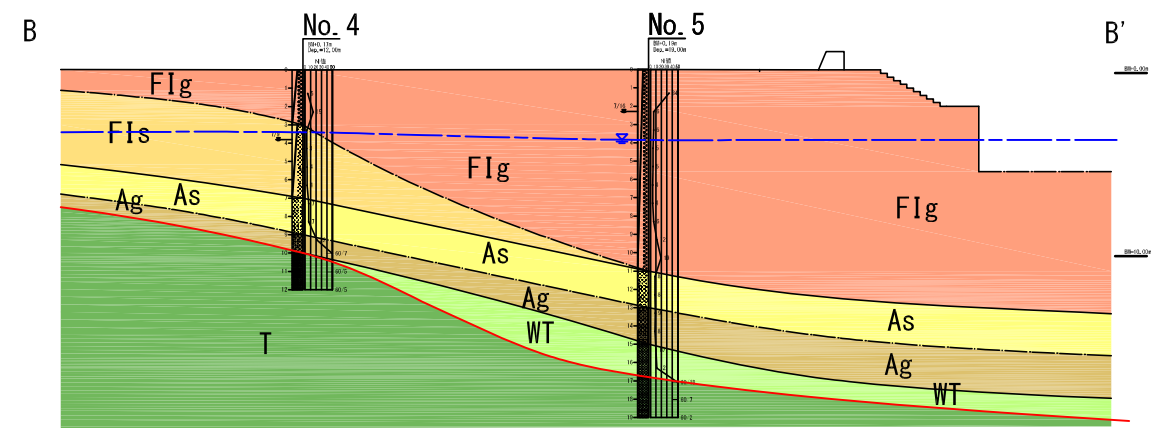
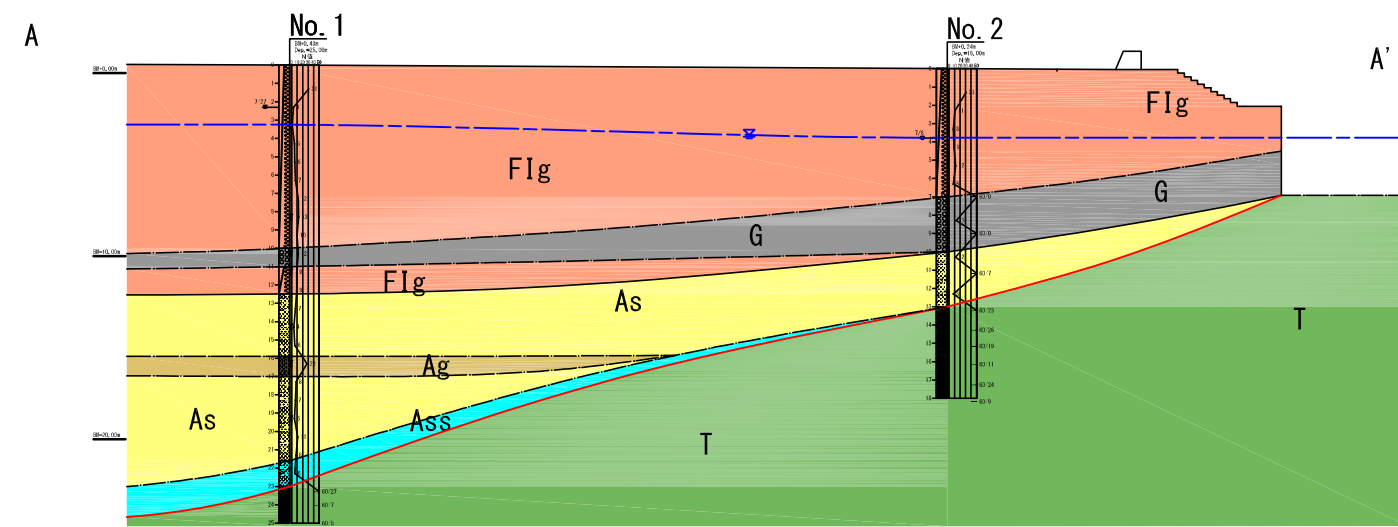
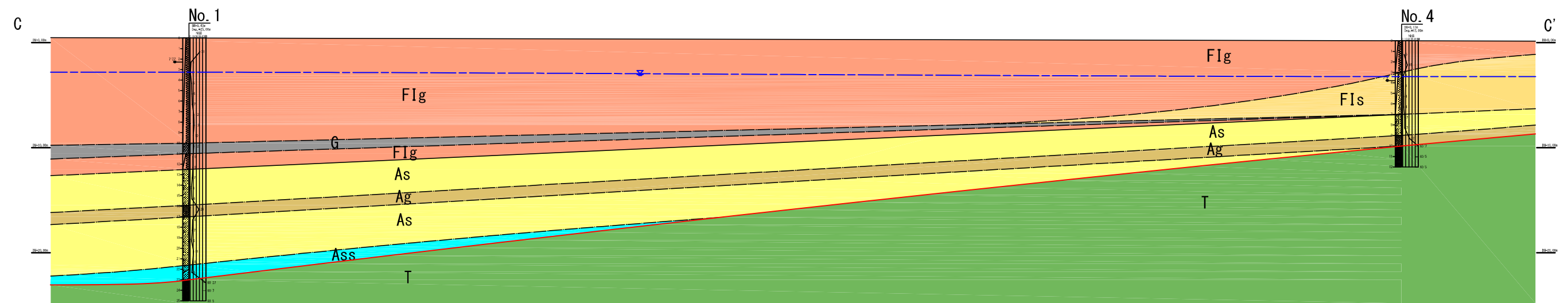
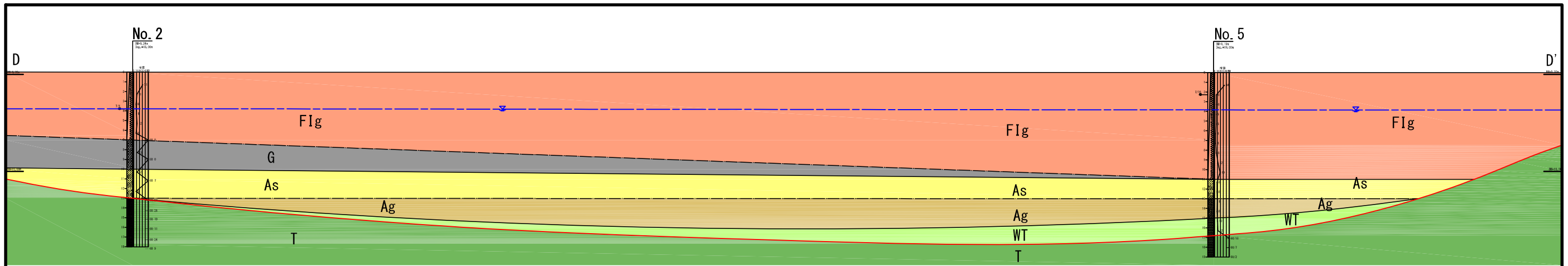
A3 H=1:400(横), V=1:100(縦)

--- 地下水位
 --- 支持地盤線 (N値60以上)

地質構成表					
地質時代	地質名	土工区分	記事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土(砂優勢)	F1s	砂質土	3~4	3.0
	埋土(礫優勢)	F1g	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
古第三紀 始新世	シルト混じり砂	Asa	砂質土	6	6.0
	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上 (換算: 67~300)	201.0



年度	令和 3 年度
工事名	(仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託
施工箇所	長崎県 長崎市 香焼町 563-15
図面種類	横断図 5
縮尺	H=1:400(横), V=1:100(縦)
図面番号	6葉の内 6 号
長崎市 建築部 建築課	



横断面等倍1 S=1:400

— 地下水位
— 支持地盤線 (N値60以上)

地質構成表

地質時代	地質名	土工区分	記 事	N値範囲	設計N値
第四紀 沖積世	埋土 (砂優勢)	Fls	砂質土	3~4	3.0
	埋土 (礫優勢)	Flg	礫質土	1~50	11.0
	捨石	G	玉石混じり土	12~60	44.0
	礫混じり砂	As	砂質土	4~60	7.0
	砂 礫	Ag	礫質土	8~28	15.0
	シルト混じり砂	Ass	砂質土	6	6.0
古第三紀 始新世	風化泥岩及び風化凝灰岩	WT	礫質土	10~45	23.0
	泥岩及び凝灰岩	T	軟岩 I	60以上 (換算: 67~300)	201.0

ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託

ボーリングNo. 1

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1		調査位置	長崎県長崎市香焼町563番15号			北緯	32° 41' 14.1"				
発注機関	長崎市役所 建築部 建築課			調査期間	令和 3年 7月 15日 ~ 3年 7月 27日		東経	129° 48' 45.4"				
調査業者名	株式会社ニッソク 電話(095-894-5871)		主任技師	鈴木雄吾		現代場人	鈴木雄吾	コア鑑定者	鈴木雄吾	ボーリング責任者	金子寛	
孔口標高	BM +0.43m	角	180°上 90°	方	北, 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM-05DA-2		ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	25.00m	度	0°	向				エンジン	NFAD7-K		ポンプ	ヤンマー動噴

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色相対調度	相対稠密度	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	試料採取番号	採取方法	室内試験 ()	掘進月日
									深 (m)	10cmごとの打撃回数	0	10	20						
1				埋土	茶灰雑		埋立地と思われる、礫質土を主体とする。礫は1~3cm程度を多く含む傾向で、礫間充填物は非常に不均質。	7/26 3.25	1.15	8	11	12	31						7/15
2				埋土	茶		最大コア長は20cm程度で硬質なものが多い。		1.45	1	1	1	3						7/16
3				埋土	茶		礫の混入が非常に多く、所々コア状で採取される。		2.15	1	1	1	3						7/16
4				埋土	茶		安山岩礫や泥岩礫、片岩礫など様々な種類の礫が混入する。		2.45										7/16
5				埋土	茶		縮まり具合も全体的に不均質であり、縮まりが悪い箇所が多い。		3.15	1			1						7/16
6				埋土	茶		安山岩礫や泥岩礫、片岩礫など様々な種類の礫が混入する。		3.45	2	1	2	5						7/16
7				埋土	茶		縮まり具合も全体的に不均質であり、縮まりが悪い箇所が多い。		4.15	2	1	2	5						7/16
8				埋土	茶		GL-2.5m付近にはやや炭化した木片が混入する。		4.45	2	1	2	5						7/16
9				埋土	茶		GL-8.0m以深は全体的に礫が大きくなる傾向で、5cm前後のものが目立つ。		4.75	2	2	2	6						7/16
10	-9.57	10.00	10.00	埋土	茶		全体的にGL-8.0m以深は上位より縮まっている。		5.15	2	2	2	6						7/16
11	-10.57	1.00	11.00	玉石	白暗灰雑		埋立に伴う捨石部と思われる、安山岩礫が連続する。安山岩礫は非常に硬質。		5.45	2	2	2	6						7/16
12	-12.07	1.50	12.50	埋土	茶		主に礫質土で採取され、玉石部と同様の硬質安山岩礫を含む。最大礫径は5cm程度。		6.15	3	2	2	7						7/16
13				礫混じり砂	暗灰		砂層であり、目が粗い海砂を主体とし、礫を混入する。		6.45	3	2	2	7						7/16
14				礫混じり砂	暗灰		海岸性堆積物と思われる、貝殻片を含む。		6.75	7	3	2	12						7/16
15				礫混じり砂	暗灰		部分的に縮まった箇所も見られるが、全体的に緩い。		7.15	7	3	2	12						7/16
16	-15.47	3.40	15.90	砂礫	灰~茶灰		主に礫質土状で採取され、最大礫径は7cm程度。		7.45	3	4	6	13						7/16
17	-16.57	1.10	17.00	砂礫	灰~茶灰		主に礫質土状で採取され、最大礫径は7cm程度。		7.75	3	4	6	13						7/16
18				礫混じり砂	暗灰		海岸性堆積物と思われる礫混じり砂層。		8.15	3	4	6	13						7/16
19				礫混じり砂	暗灰		砂を主体とするが、所々φ1cm程度の礫含む。		8.45	4	3	3	10						7/16
20				礫混じり砂	暗灰		GL-18.8~19.0mは比較的シルト分多い。		8.75	4	3	3	10						7/16
21				礫混じり砂	暗灰		上位の礫混じり砂と比較すると、礫の混入率は多い傾向。		9.15	4	3	3	10						7/16
22	-21.17	4.60	21.60	シルト混じり砂	暗灰		主に砂質土状で採取されるシルト混じり砂層。		9.45	3	4	5	12						7/16
23	-22.57	1.40	23.00	シルト混じり砂	暗灰		下位ほどシルト分減少する傾向。		10.15	3	4	5	12						7/16
24				泥岩	暗灰		泥岩の軟岩状で主に短棒状で採取される。		10.45	4	2	3	9						7/16
25	-24.57	2.00	25.00	泥岩	暗灰		亀裂は全体的に多いが、亀裂面の風化は少ない。構造物支持層として問題ない層である。		11.15	4	2	3	9						7/16

ボーリング柱状図

調 査 名 (仮 称) 南 部 学 校 給 食 セ ン タ ー 土 質 調 査 業 務 委 託

ボーリングNo. 2																			
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 2		調査位置	長崎県長崎市香焼町563番15号						北緯	32° 41' 12.6"					
発注機関	長崎市役所 建築部 建築課			調査期間	令和3年6月29日 ~ 3年7月6日						東経	129° 48' 45.6"				
調査業者名	株式会社ニッソク 電話(095-894-5871)		主任技師	鈴木雄吾		現代場人	鈴木雄吾		コア鑑定者	鈴木雄吾		ボーリング責任者	金子寛			
孔口標高	BM +0.24m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°		使用機種	YBM-05DA-2		ハンマー落下用具	半自動落下		
総掘進長	18.00m	度		向						エンジン	NFAD7-K		ポンプ	ヤンマー動噴		

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	深 度 (m)	試料採取番号	採取方法	室内試験 ()	掘進月日	
										深 度 (m)	10cmごとの打撃回数	0	10	20								30
1				埋土	灰・茶灰雑			埋立地と思われる主に礫質土を主体とし、不均質な土質状況。コア長8~10cm程度の安山岩礫が連続し、最大コア長は15cm程度。コア間はφ30~50mmの礫を多量に含む。安山岩礫は非常に硬質であり、ハンマーで金属音。部分的に泥岩礫を含む箇所あり。	7/6 3.28	1.15	6	10	15	31/30								6/29
2										1.45	4	4	3	11/30								
3										2.15	4	4	3	11/30								
4										2.45	2	3	3	8/30								
5										3.15	2	3	3	8/30								
6										3.45	2	3	4	9/30								
7										4.15	2	3	4	9/30								
8										4.45	2	7	3	12/30								
9										5.15	2	7	3	12/30								
10										5.45	3	3	2	8/30								
11										6.15	3	3	2	8/30								
12										6.45	貫入不能			60/0								
13										7.00	貫入不能			60/0								
14										8.15	3	7	3	13/30								
15										8.45	貫入不能			60/0								
16										9.00	貫入不能			60/0								
17										9.00	貫入不能			60/0								
18										10.15	3	2	7	12/30								
19										10.45	60/7			60/7								
20										11.15	60/7			60/7								
21										11.22	4	2	2	8/30								
22										12.15	4	2	2	8/30								
23										12.45	18	24	18/3	60/23								
24										13.10	19	21	20/6	60/26								
25										13.33	21	39/9		60/19								
26										14.15	21	39/9		60/19								
27										14.41	50	10/1		60/11								
28										15.07	50	10/1		60/11								
29										15.26	13	22	25/4	60/24								
30										16.10	13	22	25/4	60/24								
31										16.21	13	22	25/4	60/24								
32										17.15	13	22	25/4	60/24								
33										17.39	60/9			60/9								
34										18.15	60/9			60/9								
35										18.24												

ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託

ボーリングNo. 3

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 3		調査位置	長崎県長崎市香焼町563番15号			北緯	32° 41' 13.3"			
発注機関	長崎市役所 建築部 建築課			調査期間	令和 3年 7月 20日 ~ 3年 7月 29日		東経	129° 48' 48.5"			
調査業者名	株式会社ニッソク 電話(095-894-5871)		主任技師	鈴木雄吾		現代場人	鈴木雄吾	コア鑑定者	鈴木雄吾	ボーリング責任者	金子寛
孔口標高	BM +0.31m	角	180°上 90°	方	北, 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM-05DA-2	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	20.00m	度	0°	向				エンジン	NFAD7-K	ポンプ	ヤンマー動噴

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				N値	原位置試験	試験名および結果	深さ (m)	採取番号	採取方法	掘進月日														
										深さ (m)	10cmごとの打撃回数	0	10								20	30												
1				埋土 (礫優勢)	茶灰雑			主に礫質土を主体とする埋立地。礫の含有が非常に多く、主に片岩礫や安山岩礫で構成される。部分的にコア状で採取され、最大コア長は6cm程度。礫はφ10~50mmを主体とする。	7/30 2/30	1.15	10	9	5	24		LLT E=5, 886KN/m2	2.00			7/20														
2																																		
3																																		
4	-3.39	3.70																																
5				玉石	茶灰雑			短棒状コアが連続する埋立の際の捨石であり、玉石混じり土層。最大コア長は35cm程度。礫は安山岩礫や、凝灰岩礫で構成される。	7/30 2/30	4.15	4	2	3	9																				
6	-5.69	2.30																																
7				埋土 (礫優勢)	茶灰雑			主に礫質土であり、埋土層。礫はφ10~30mmを主体とする。GL-8.5~9.0mは細礫の含有が比較的多い。部分的に礫がコア状で採取され、最大コア長は11cm程度。	7/30 2/30	6.15	4	3	2	9																				
8																																		
9																																		
10	-9.69	4.00																																
11				砂礫	茶灰			礫質土状で採取される、砂礫層。最大礫径は60mm程度。砂は下位ほど目が粗い傾向。	7/30 2/30	10.45	7	5	4	16																				
12	-12.29	2.60																																
13				礫混じり砂	緑灰			礫混じり砂層であり、主に砂質土で採取される。礫が所々混入し、最大礫径は20mm程度。下位ほど貝殻の混入が多く、海岸性堆積物と思われる。	7/30 2/30	12.45	2	2	3	7																				
14																																		
15																																		
16	-15.69	3.40																																
17				風化泥岩	黒茶			泥岩の風化層と思われる、主に礫質土状。岩の組織は明瞭であり、下位ほど硬質。	7/30 2/30	16.45	5	18	22	45																				
18	-17.39	1.70																																
19				泥岩	黒茶			泥岩の軟岩状で主に短棒状で採取される。亀裂は非常に多く、部分的に破砕進む。構造物支持層として問題ない層である。	7/30 2/30	18.00	60	6	6	60																				
20	-19.69	2.30																																

ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託

ボーリングNo. 4

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 4		調査位置	長崎県長崎市香焼町563番15号			北緯	32° 41' 13.8"					
発注機関	長崎市役所 建築部 建築課			調査期間	令和 3年 7月 7日 ~ 3年 7月 9日		東経	129° 48' 49.9"					
調査業者名	株式会社ニッソク 電話(095-894-5871)		主任技師	鈴木雄吾		現代場人	鈴木雄吾	コア鑑定者	鈴木雄吾				
ボーリング責任者	金子寛												
孔口標高	BM +0.17m	角	180° 上	90°	方	北, 0° 270° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 YBM-05DA-2	ハンマー落下用具	半自動落下	
総掘進長	12.00m	度	下	0°	向				エンジン	NFAD7-K	ポンプ	ヤンマー動噴	

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	試験採取番号	採取方法	室内試験 (掘進月日)	
											深	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	0	10						20
1					埋土 (礫優勢)	黒茶 / 灰 / 茶灰雑			礫質土を主体とする埋立地と思われる、不均質な土質状況。上位0.3mは有機質土化進む。GL-0.3~2.0mは安山岩礫が多く含有しており、φ10~30mmを主体とする。GL-2.0m以深は砂分がやや多くなるが、礫優勢。最大礫径は80mm程度。	7/9 3/1	1.15	1	2	2	5/30	5					
2					埋土 (砂優勢)	茶灰雑			砂を主体とする埋土層だが、礫の混入も非常に多い。礫は細礫が多く、φ2~4mmを主体とする。GL-7.0m付近には60mm程度の安山岩礫を含む。	3.15	1	1	1	3/30	3						
3	-2.83	3.00	3.00	3.45						1	1	1	3/30	3							
4					礫混じり砂	暗灰			海岸性堆積物と思われる砂で、全体的に細礫や貝殻片を多く含む。砂は海砂を主体とし、比較的粒度が粗い。	4.15	1	1	1	3/30	3						
5				5.15						2	1	1	4/30	4							
6	-6.83	4.00	7.00	6.15						1	1	2	4/30	4							
7					砂礫	褐茶			主に礫の含有が多い砂礫層。下位は風化泥岩の可能性あり。	6.45	2	1	4	7/30	7						
8				7.15						2	1	4	7/30	7							
9	-8.83	2.00	9.00		泥岩	暗灰			泥岩の軟岩状で主に短棒状で採取される。亀裂は全体的に多く、亀裂面より赤褐色化進む。構造物支持層として問題ない層である。	7.45	2	3	2	7/30	7						
10				8.15						2	3	2	7/30	7							
11				8.45						2	3	2	7/30	7							
12	-9.83	1.00	10.00							9.15	12	6	4	22/30	22						
										9.45	60/7			60/7	257						
										10.00	60/7			60/7							
										10.07	60/5			60/5	360						
										11.00	60/5			60/5	360						
										11.05	60/5			60/5	360						
										12.00	60/5			60/5	360						
										12.05											

ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 南部学校給食センター土質調査業務委託

ボーリングNo. 5

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 5		調査位置	長崎県長崎市香焼町563番15号			北緯	32° 41' 13.1"			
発注機関	長崎市役所 建築部 建築課			調査期間	令和 3年 7月 10日 ~ 3年 7月 16日		東経	129° 48' 50.0"			
調査業者名	株式会社ニッソク 電話(095-894-5871)		主任技師	鈴木雄吾		現代場人	鈴木雄吾	コア鑑定者	鈴木雄吾		
ボーリング責任者	金子寛										
孔口標高	BM +0.19m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北, 0° 270° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM-05DA-2	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	19.00m	度		向				エンジン	NFAD7-K	ポンプ	ヤンマー動噴

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進
										深	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	深	度					
1				埋土 (礫優勢)	茶灰雑			埋立地であり、主に礫質土を主体とし、不均質な土質状況。礫は安山岩や蛇紋岩など複数の礫が採取される。GL-6.0m以浅は礫径10~40mmを主体とし、部分的にコア状で採取される。最大コア長は11cm程度。GL-6.0~10.0mは礫径が減少し、粘土分が増加するが、細礫を多量に含む。GL-10.0m以深は礫の含有量多く、礫径10~30mmを主体とする。	7/16 3.55	1.15	7	10	17	34/30	34				7/10
2										2.15	2	3	1	6/30	6				
3										3.15	3	1	2	6/30	6				
4										3.45									
5										4.15	2	1	2	5/30	5				
6										4.45	2	1	2	5/30	5				
7										5.15	2	1	2	5/30	5				
8										6.15	2	1	1	4/30	4				
9										6.45									
10										7.15	1	1	2	4/30	4				
11										7.45									
12				礫混じり砂	暗灰			礫混じり砂層であり、主に砂質土で採取される。礫の含有も多く、礫は3mm程度を主体とし、最大礫径は20mm程度。		8.15	2	1	3	6/30	6				
13										8.45									
14				砂礫	茶雑			主に礫質土で採取される砂礫層であり、礫径20mm程度を主体とする。風化二次堆積物と思われる。		9.15	3	3	6	12/30	12				
15										9.45									
16				風化凝灰岩	薄褐茶			凝灰岩の風化層と思われ、主に礫質土状。風化により粘土化進むも、岩の組織は残る。		10.15	7	7	5	19/30	19				
17										10.45	3	2	3	8/30	8				
18				凝灰岩	褐茶灰			凝灰岩の軟岩状で短棒状~柱状コアで採取される。亀裂は比較的少ないが、一部縦クラックが見られる。構造物支持層として問題ない層である。		11.15	2	3	3	8/30	8				
19										12.15	2	3	3	8/30	8				
										12.45	2	3	4	9/30	9				
										13.15									
										13.45	2	3	3	8/30	8				
										14.15									
										14.45	2	3	5	10/30	10				
										15.15									
										15.45	4	3	5	12/30	12				
										16.15									
										16.45	27	33	8	60/18	100				
										17.00									
										17.18	60/7			60/7					
										18.07	60/7			60/7					
										18.07									
										19.00	60/2			60/2					
										19.02									